

## 地域スポーツコースによる地元スポーツクラブとの連携について

新井 博<sup>1)</sup>

### The Relationship between College Sport Courses and Regional Sport Clubs

Hiroshi ARAI

#### Abstract

This paper will indicate the conditions and the background of the relationship between college sport courses and their influence on regional sport clubs. In this college the regional sport course has the objective of raising the students' awareness and maturity in order for them to lead to effective involvement in sports activities in their hometown regional sports. The sporting experience gained at regional sport clubs during the students' college days, are very important for students in the regional sport course. In this paper, I interviewed all eight teachers from this course to show the relationship between their college sport course and regional sport club. This paper will discuss the following:

1. Half the teachers have involvement with regional sports clubs. The remaining four don't have such involvement.
2. All the teachers believe they can create a stronger and better relationship towards regional sport clubs in the future.
3. One reason behind the rate of progress is specific to the specialty of the teachers' study, that is, their study focus is not directly related to regional sports. Their aim is to improve this condition.
4. The second reason is that all members believe the conditions and objectives of regional sport courses are currently inadequate. All the course members must make the time to discuss this theme.

Key words : Relationship, College Sport Courses, Regional Sport Clubs, Teacher

---

1) 生涯スポーツ学科

## はじめに

本学では、地域支援のためのスポーツ・健康に関する様々な活動を実施してきている。これらは、本学が地域に根ざす上で重要な活動であるばかりか、今日ではスポーツ機関として行う必然な活動となりつつある。主に、本学ではスポーツ開発・支援センター(以下、支援センター)や地域スポーツコース(以下、地域コース)が、行政や地元のスポーツクラブと連携して、これらの活動に携わってきた。以下では、一口に地域支援といっても様々あるがその活動の中で、コースが行っている地元スポーツクラブとの連携に的を絞って取り上げたい。地域コースについて簡単に説明すると、スポーツ学部は「競技スポーツ学科」と「生涯スポーツ学科」の2つに分かれる。さらに「生涯スポーツ学科」は「学校スポーツコース」「野外スポーツスポーツ」「地域スポーツコース」の3つに分かれ、その中の1つが地域コースということになる。尚、支援センターが実施している地元スポーツクラブとの連携については、『スポーツ開発・支援センター年報』に詳しく紹介されているので、ぜひそちらを参照していただきたい。

何故、地域コースによる地元スポーツクラブとの連携に焦点を当てるかと言えば、地域コースによる活動の再考のきっかけにしたいからである。支援センターが行ってきた地元スポーツクラブとの連携活動は、大学をあげて組織的・計画的なスポーツ支援事業の一環として実施されてきている。さらに、支援センターの活動は『スポーツ開発・支援センター年報』によって毎年記録されると同時に、内容が広く公表されている。そのため、活動が分かりやすく、広範に知られている。

それに比べ、地域コースの取り組みは、ゼミ(各教員を1つの単位として組織されたゼミ活動の集団で、卒業論文まで作成する)毎に任意に実施されているため、学外から、また学生を含めた学内でも分かりにくい。地域

コースでは、「将来、地域でのスポーツ活動をリードできる人材の育成を目的」としているため、地域コースの学生たちは地域でのスポーツ活動について、授業やゼミ活動を通して学習している。ところが実際は、授業で地元スポーツクラブとタイアップして学習しているかと言えば、そこまで深く関係しているわけでもない。また、各ゼミの方針も様々で、地元スポーツクラブとの関わりに決まった形があるわけではないのである。さらに、地域コースの活動を記録し、公開するわけでもないことから、活動が分かりにくいことも確かである。

さらに、地域コースにとって将来の学生たちの目標を考えたときに、地域スポーツについて机上で勉強をする以外で実際の経験をするためには、地元スポーツクラブとの関係は重要な位置づけになると言わざるを得ない。

以上のように、地域コースによる地元スポーツクラブとの連携活動は、重要であるにも関わらず、まだ一定でなく、また不明瞭であり、充実が求められている。そこで、本論では地域コースの現状を紹介しながら、地元スポーツクラブとの連携の在り方を考え、今後の活動のきっかけになればと考えている。

## 1 支援センターと地域コースによる組織・活動の違い

上記で、支援センターの活動と地域コースによる地元スポーツクラブとの連携の相違について極めて簡単に触れたが、組織的な面からももう少し述べる。

本学の支援センターでは、地域の住民を対象に体育・スポーツ・健康を促進する活動を展開してきた。つまり、滋賀県における地域の体育・スポーツセンターの役割を担うことを組織的な目標にして活動してきている。支援センターは、地域住民に対する大学の窓口となり、教職員が中心となり、彼らのニーズに対応したスポーツ促進活動や受諾研究を実施してきた。具体的には、県・市・町・村の

行政、各種団体、市民のスポーツクラブからの健康・スポーツ促進に関する要請に対し、スポーツ指導者・講演者の派遣、講習会や講演活動の開催、受諾研究の実施など広範な活動を実施してきたのである。

地域コースが行う地元スポーツクラブとの連携の場合、従来、この地域コースは将来地域での活動を望む学生たちに、必要な主体的な力量を養うことを目的とする1コースという性格であり、あくまで学生たちの学習活動の一環という位置づけとなっている。学習活動の一環とは、支援センターのような要請に対して直接講師・講演活動などによって対応することではなく、現在のところ中心は地元スポーツクラブで学ばせてもらうことである。学生たちが地元スポーツクラブで彼らの活動を見学する、或いは活動のサポートといった活動を通して、実際的な経験を積ませてもらう内容となっている。

## 2 授業とゼミ活動における地元スポーツクラブとの連携

地域コースで行ってきた地元スポーツクラブとの連携活動は、個人的に行う場合を除けば、全て授業とゼミ活動を通して行われてきた。以下では、授業とゼミ活動におけるそれらの内容を紹介する。

### (1) 地域コースの教員

地域コースでの授業・ゼミ活動の柱は、地域コースの教員たちの専門性に依るところが大きいと言わなければならない。そこで、はじめに地域コースの教員たちの専門と担当する授業を紹介する。

2008年現在、地域コースに所属する教員(以下敬称略)は8名である。6年前に大学が発足した当時、コースはA、B、C、D、Eの5名でスタートした。そして、昨年2007年からセンターに所属していたF、Gが加わり、さらに新採用のHが加わり、現在の8名となった。

Aは、体操・器械体操と幼児教育を専門としている。授業では、実技科目として「体操・器械運動」、コース科目として「コミュニティスポーツ論」「地域スポーツ特別講義」「地域スポーツ演習」を担当している。

Bは、障害者スポーツを専門としている。授業では、実技科目として「障害者スポーツ」、生涯スポーツ学科科目として「障害者スポーツ論」、コース科目として「障害者スポーツ地域指導論」、「地域スポーツ演習」を担当している。

Cは、公衆衛生を専門としている。授業では、学部共通・専門科目として「体力測定と評価」、生涯スポーツ学科科目として「衛生・公衆衛生学」「生涯スポーツと安全管理」、コース科目として「生涯スポーツと地域保健」「地域スポーツ演習」を担当している。

Dは、スポーツ社会学を専門としている。授業では、学部共通・専門科目として「スポーツ社会学」「レジャー・レクリエーション論」、コース科目では「スポーツクラブと地域社会地域社会」「地域スポーツ演習」を担当している。

Eは、身体発育発達を専門としている。授業では、学部共通・専門科目として「身体発育発達論」、コース科目として「地域スポーツ演習」を担当している。

Fは、体育史と体操教育を専門としている。授業では、実技科目として「健康体操」、学部共通・専門科目として「体育・スポーツ史」を担当している。

Gは、スポーツ社会学を専門としている。授業では、実技科目として「レクリエーションスポーツ」、生涯スポーツ学科科目として「スポーツとジェンダー」、コース科目として「コミュニティスポーツとジェンダー」「地域スポーツ演習」を担当している。

Hは、スポーツの歴史・哲学を専門としている。授業では、学部共通・専門科目として「スポーツ哲学」「スポーツ文化論」、コース科目として「ニュースポーツ論」「地域スポ

ーツ演習」を担当している。

以上のように、各教員は専門に根ざしながら、地域コースの学生に必要とされる授業科目を担当している。

## (2) 授業と連携

地域コースでは、授業として「学科共通科目」以外に、学生たちに「コース専門科目」として、次の11科目を開設している。

「地域スポーツ基礎演習（2単位）」「地域スポーツ演習（必修4単位）」「地域社会とスポーツ（必修2単位）」「地域スポーツ専門実習Ⅰ（必修1単位）」「地域スポーツ専門実習Ⅱ（必修1単位）」「生涯スポーツと地域保健（2単位）」「こどもとあそびと運動（2単位）」「女性と生涯スポーツ（2単位）」「障害者スポーツ地域指導論（2単位）」「地域スポーツ特別講義（2単位）」「ニュースポーツ論（2単位）」

この11科目が基本的には、学生が地域コースで学ぶ中心的な内容である。（学科共通科目の中にも「地域スポーツの理論と実際（2単位）」がある）。学生たちは、卒業のために8単位を必修として、18単位以上履修しなければならないことになっている。必修科目では、ゼミを中心とした教員の専門性に沿った内容が扱われている。選択科目は、地域コースに所属する自分のゼミ以外の教員による授業を聞いて、広い教養を養うシステムとなっている。

授業で行われている地元スポーツクラブとの連携は、1つは実際の「コース専門科目」の授業のなかで実施されている。しかし、その程度は様々である。様々とは、連携を行っていないところもあれば、積極的に実施しているところもあると言う意味である。

例えば、「地域スポーツの理論と実際」といった3人の教員によるオムニバス形式の授業では、3人の教員たちによる地域スポーツクラブに関する説明（H=地域スポーツクラブに関する歴史的・行政的な説明。A=ドイ

ツのスポーツクラブについての説明。D=総合型地域スポーツクラブに関する説明）が行われた後、学生たちは実際に地元スポーツクラブを訪ね、思い思いのテーマで調査活動を行うシステムとなっている。そのため、そこでの地元スポーツクラブとの関係は、研究調査の対象となっている。また、「地域スポーツ専門実習Ⅰ（必修1単位）」「地域スポーツ専門実習Ⅱ（必修1単位）」といったゼミ活動による授業では、実際に地元スポーツクラブとの交流を実施している（これについては、以下のゼミ活動のところで述べる）。しかし、全体的には担当する教員の専門性や方針によるところが大きい。

## (3) ゼミ活動としての地元スポーツクラブとの連携

次に、各ゼミの地元スポーツクラブとの連携について、実際に行ってきたことについて各教員から聞き取った内容を紹介する。活動は、大きく2つに分けられる。総合型地域スポーツクラブとの連携の場合と、その他の一般スポーツクラブとの連携の場合である。以下では、それらの内容について特徴的なものを紹介する。

### 1) 総合型スポーツクラブとの連携の場合

総合型地域スポーツクラブとは、1990年以降学校運動部の低迷や企業スポーツクラブの衰退などの中で、ヨーロッパ型の地域密着型の新たなスポーツクラブである。政府は2000年以降今までの学校運動部や企業スポーツクラブに代わって、積極的に推進している。

Dゼミでは、2003年に本学の卒業生が中心となって立ち上げた「BSC」と呼ばれる総合型地域スポーツクラブと深い関係を持ちながら活動を行っている。Dは授業においてもBSC総合型地域スポーツクラブを、地元スポーツクラブの新しい形として誕生・活動・課題について紹介している。また、ゼミの活動としてもBSC総合型地域スポーツクラブでの活動の見学やサポートを体験させている。

学生たちはBSC総合型地域スポーツクラブの活動を通して、新しいスポーツクラブについて体験的に経験を積むことに役立っている。

## 2) その他の地元スポーツクラブとの連携

### ①障害者スポーツクラブとの連携

Bゼミでは、地元の「イルカ」という名称の障害者による水泳クラブとの連携を継続して行っている。きっかけは、Bが5年ほど前地元の障害者の親たちや障害者の関係団体から、水泳指導を依頼されたことから始まっている。定期的な活動は、約20名程集まってくる障害者に対しての水泳指導である。毎週木曜日、本学のプールを使い45分の水泳指導を3回に分けて実施している。形態はBが全体の指導にあたり、学生たちが障害者一人一人について、マンツーマンの水泳指導を行うものである。基本的には遊びを中心とした内容であるが、参加者の泳力の程度にあわせて指導内容を変えている。

学生たちはマンツーマンで障害者の水泳をサポートする活動を通して、直接障害者に対する水泳指導を体験し貴重な経験をしている。

### ②高齢者スポーツクラブとの連携

Fゼミでは、2006年から高島町にあるNPO法人による高齢者スポーツクラブ「どろんこ」と連携を行っている。きっかけは2006年Fが健康体操に関する講演と実技指導を、高齢者スポーツクラブ「どろんこ」によって頼まれたことから始まった。活動当日はFが健康体操の講演を行い、続いて健康体操の実技指導を行った。その際、ゼミの学生がFの活動をサポートしている。2007年もFとゼミの学生は「どろんこ」で体力測定を実施しながら、健康体操を通しての連携を深めている。

学生たちは老人たちとの健康体操指導を通じて、老人たちにとっての体操の必要性を学び貴重な体験を積んでいる。

### ③バレーボールクラブとの連携

Hゼミでは2008年度のゼミ活動として市民によるビーチバレーボール大会を開催し、地元のビーチバレーボールチームとの連携を始めた。今年9月7日日曜日に滋賀県の琵琶湖岸のマイアミビーチで、ゼミ主催による県下ビーチボール大会を開催した。開催のきっかけは、2008年4月ゼミ主催で市民によるスポーツイベントを企画・運営する経験を養うことを決めてからである。4月からゼミでスポーツイベントを構想し、細かな準備をしながら、9月7日の日曜日に開催した。ゼミの学生にビーチバレーボールをやっている者がいたため、彼を中心に県下の大学バレーボール部や高校バレーボール部、地元クラブチームに呼びかけ開催にこぎつけた。実際参加したチームは大学のクラブ、地元のクラブで、残念ながら高校生の参加はなかった。しかし、朝から夕方まで熱戦が繰り広げられ、活発な大会となった。

学生たちにとってはスポーツイベントの企画・当日運営など、約5ヶ月をかけた活動によって、普段の生活の中では経験できないスポーツイベントの企画を行い、必要なノウハウを身につけることができた。また、地元のビーチバレーボールクラブと交流を始めることができた。

## (4) 授業とゼミ活動による地元スポーツクラブとの連携の状況

今回地域コースの教員に授業とゼミ活動によって地元スポーツクラブと連携について聞いたところ、約半数が何らかの形で連携を進めていると答えた。また、残りの半数の方は現在連携が無い。今後地元スポーツクラブとの連携を考えていると答えている。

連携を行っている中で、特に積極的な連携を進めている2名の教員は今後もさらに積極的な連携を進めていく気持ちであると答えた。また最近連携を始めた2名の教員は、今後も継続していく気持ちであると述べている。

### 3 コースと地元スポーツクラブとの連携における問題点と方向性

#### (1) 連携における問題の背景

上記で地域コースと地元スポーツクラブとの連携について述べてきたが、総じて開学以来6年間経たが十分な連携が行われてきたとは言いがたい。以下では、これらの背景を若干考えてみる。

##### 1) 教員の専門性

先ず大きな背景と考えられることは、開学当初から地域コースに集まった教員たちは、全員が必ずしも地域スポーツを研究の対象とした教員であったわけではなかったことである。違った領域を研究する教員が多い。そのため、この6年間は各教員たちが地域コースの内容を徐々に充実させるために、研究の幅を広げる独自の努力を重ねてきた過程であると言えよう。さらに、5年目以降から加わった教員たちもについても専門が違っていたが、地元スポーツクラブとの連携のための努力を続けているといった現状である。

##### 2) 地域コースによる将来像

次に考えられることは、地域コースといった名称であるが将来の明確な方向性が地域コースに作られていないから、地元スポーツクラブとの連携にも明確なビジョンが立てられずにいると言うことが考えられる。地域コースにおいて地域とは何を指すのかを含めて、漠然とした了解で地域コースの目的を決めて

活動してきている。そのため、活動が個々の教員の考え方に任されたまま任意に進められている状況である。将来を見据えた慎重な話し合いが必要とされているといえよう。

### 4 まとめ

はじめにの問題意識から地域コースにとって地元スポーツクラブとの連携は、現在半分のゼミや授業で行われている状況で必ずしも十分ではない。また、全体として充実に向けて努力している途中であることが分かった。

それらの背景には教員の専門性が必ずしも地域と一致していない点、また地域コースとしての将来に向けての独自の状況分析とその組織的対応の必要性が考えられる。

しかし、今後地域コースによる教員は、ほぼ全員が連携を考えており、状況の差はありながらも、協力しながら進めていきたいと考えている。

### 参考文献

- びわこ成蹊スポーツ大学 2004, 2005, 2006, 2007年度 大学案内  
講義概要 びわこ成蹊スポーツ大学 2004, 2005, 2006, 2007年度  
びわこ成蹊スポーツ大学 研究紀要 2004, 2005, 2006, 2007, 2008年  
スポーツ開発・支援センター 年報 2004, 2005, 2006, 2007, 2008年